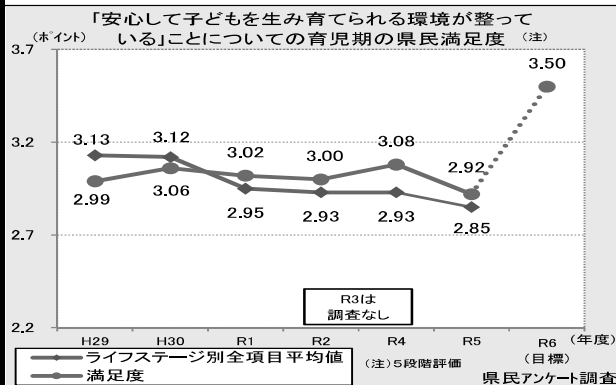


II 奈良県の子ども、若者の未来への責任
 4. こども・子育て支援の充実、女性活躍の推進
 担当部局等:こども・女性局、医療政策局、医療・介護保険局、まちづくり推進局、教育委員会

目指す姿
 こどもをまんなかにおき、社会全体で子育てを支援するあたたかい県民性をはぐくむことを目指します。

目標
 令和6年度までに「安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」ことについての育児期の県民満足度を3.50ポイントにします。

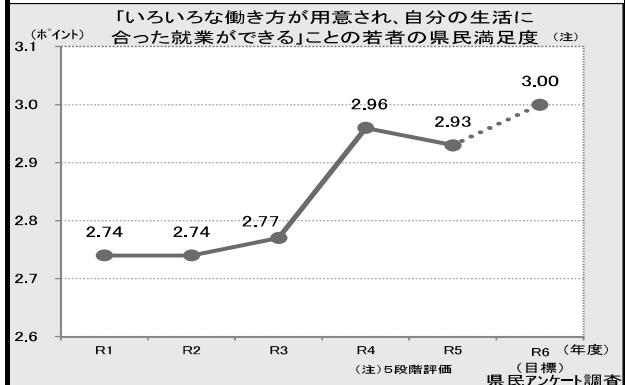


基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H 29	R 5	R 5	85.2%	R 6
2.99	-0.07 ポイント 2.92	3.43	③90%未満	3.50 (基準値未満)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
 令和5年度は前年度から0.16ポイント減少して2.92ポイントとなり、進捗率は90%未満です。しかし、育児期の県民の満足度は、ライフステージ別全項目平均値(2.85)よりも高い水準を維持しています。

背景・要因等
 国際的な原材料価格の上昇や円安による物価高騰の影響等による、各家庭における子育ての経済的な不安感が満足度の下降の要因の一つだと考えられます。

目標
 令和6年度までに「いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができる」ことの若者の県民満足度を3.00ポイントにします。

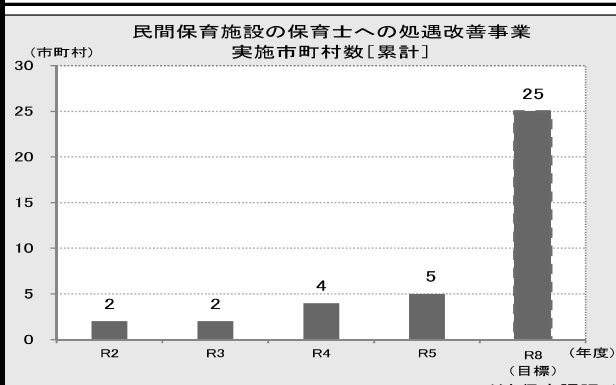


基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R 1	R 5	R 5	99.4%	R 6
2.74	+0.19 ポイント 2.93	2.95	②(90~100%)	3.00 (73.1%)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
 令和5年度は2.93ポイントとなり、前年度から0.03ポイント減少しましたが、全体としては増加傾向にあり、進捗率は99.4%で推移しています。

背景・要因等
 新型コロナウイルス感染症の影響でテレワーク等が普及したことや、テレワークに限らず、柔軟な働き方を選択する企業が増えてきたことが影響したと考えられます。

目標
 令和8年度までに民間保育施設のある全ての市町村において保育士処遇改善事業が実施されるようにします。

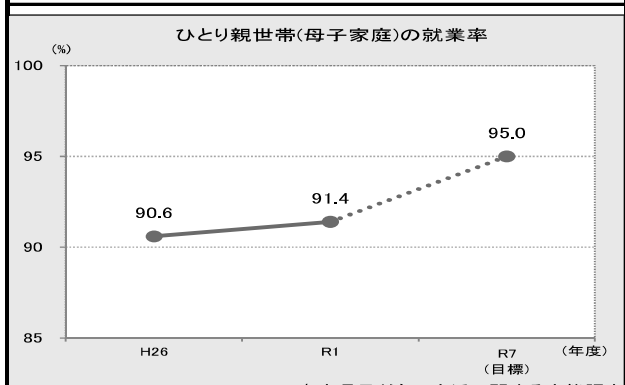


基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R 2	R 5	R 5	37.0%	R 8
2	+3 市町村 5	13.5	③90%未満	25 (13.0%)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
 令和5年度は前年度から1市増えて、25市町村のうち5市となったものの、進捗率は37.0%と低水準で推移しています。

背景・要因等
 令和5年度までは、市町村が独自に保育士処遇改善事業を実施しており、財源確保が難しい市町村において実施が進まない状況にありました。

目標
 令和7年度までにひとり親世帯(母子家庭)の就業率が95.0%にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H 26	R 1	R 1	98.7%	R 7
90.6	+0.8 ポイント 91.4	92.6	②(90~100%)	95.0 (18.2%)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
 令和元年度のひとり親世帯(母子家庭)の就業率は91.4%で、基準値から0.8ポイント増加し、進捗率は98.7%で推移しています。

背景・要因等
 令和元年度「奈良県子どもの生活に関する実態調査」において、非就業のひとり親のうち、「仕事をする希望がある」と答えた方は全体の88%以上であり、就業への意識の高さが要因の一つだと考えられます。

主な施策の取組・成果	○こども・若者の視点に立った施策の立案と推進	「奈良県こどもまんなか未来戦略」の策定に向けて、「奈良県こども・子育て推進本部」において部局横断で取組方針を検討・公表しました。
	①ジェンダーギャップの解消を始めとした社会全体の意識・構造の改革	解消策の検討のため、令和6年3月に県庁内でのアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)やジェンダーギャップの現状について調査を実施しました(対象者約4,500人、回答数1,431人)。
	②若い世代、ひとり親世帯の所得の向上	企業の多様な能力ニーズにきめ細かく対応できる人材をオンライン研修、企業実践訓練を通じて育成し、15名が正規雇用されました。また、ひとり親コンシェルジュによる就労相談を1,261件実施し、自立支援プログラムを53人に策定しました。
	③男女ともに仕事と家庭・子育てを両立できる職場環境の整備	「なら女性活躍推進倶楽部」の会員企業(登録182社、令和5年度末時点)と連携し、男性も女性も働きやすい環境づくりのため、異業種交流会や働きやすく働きがいのある職場づくりのためのシンポジウムを開催しました。また、柔軟かつ多様な働き方ができる職場環境づくりに取り組む企業を、社員・シャイン職場づくり推進企業として登録しています(登録231社、令和5年度末時点)。
	④個人の希望に応じた選択ができるよう、結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目の無い支援の充実	不妊治療調査研究事業により、医療機関ヒアリング・患者ニーズ調査・有識者による検討会を実施しました。
	⑤困難な状況に置かれているこども、子育て世帯に対する相談体制、支援等の充実	令和5年10月に教育研究所にヤングケアラー支援室を設置し、スクールソーシャルワーカー4名、スクールカウンセラー2名を配置しました。対象児童生徒の支援、新規ケースの掘り起こし、児童生徒の認知度向上、学校の対応力向上等の取組強化を図りました。
	⑥こどものすこやかな成長と子育て世帯を支える教育、保育等の体制整備	保育士の処遇改善を実施する市町村に対して、支援を行うための補助制度の検討を行い、令和6年度から財政的支援を予算化しました。
	⑦妊娠や出産、こども、子育てを支える保健医療提供体制の充実	市町村が実施する子ども医療費助成に対する県の補助対象を高校生世代にまで拡大し、所得制限を撤廃しました。また、市町村保健師等の職員を対象としたスキルアップ研修会や、県と市町村で情報共有するための調整会議を開催しました。
⑧こども、子育てにやさしいインクルーシブなまちづくり	まほろば健康パークの整備計画策定に向けて、令和5年12月に「まほろば健康パークにおけるインクルーシブ機能検討委員会」を設置し、令和6年2月に第1回委員会を開催しました。また、令和6年度から5カ年で、県営都市公園を「こどもや子育て世代をはじめとした全ての世代にやさしい公園」にするための「ぬくもりあふれる公園プロジェクト」を令和5年12月に策定しました。	

課題・取組方針	目指す姿実現に向けた課題	目指す姿実現に向けた課題
	子育て世帯が安心して子どもを生き育てるためには、育児期に応じた支援サービスの情報提供や、相談しやすい体制づくりなど、子育て支援サービスの充実が必要です。	夫婦が相互に協力しながら家事や子育てをし、それを職場が応援し、地域社会全体で支援する社会をつくるため、共働き・子育て・共家事を推進し、家庭内において育児負担が女性に集中している現状を変えることが必要です。
	課題解決のための今後の取組方針	課題解決のための今後の取組方針
	県内の全ての市町村にこども家庭センターの設置を促進し、個々の家庭に応じた切れ目のない支援体制の整備に取り組めます。また、奈良スーパーアプリの活用により子育て支援サービスのワンストップ化に取り組めます。	男性も女性も働きやすい環境づくりのため、「なら女性活躍推進倶楽部」会員企業と連携し、男性育休や多様な働き方の推進に取り組めます。

課題・取組方針	目指す姿実現に向けた課題	目指す姿実現に向けた課題
	保育人材の確保・定着を促進するためには、財源確保が難しい市町村においても保育士等の処遇改善事業を行うことが必要です。	ひとり親は一人で全てを背負わないといけない負担から、時間的余裕のない方が多いと考えられ、利用できる支援制度やサービスの周知が必要です。
	課題解決のための今後の取組方針	課題解決のための今後の取組方針
	令和6年度より開始した保育士等処遇改善に取り組む市町村に対する財政的支援を継続することにより、保育士等の処遇改善に取り組む市町村を増やします。	スマイルセンターに「ひとり親コンシェルジュ」を配置し、市町村やハローワークと連携した出張相談や、必要に応じて戸別訪問等を行うほか、ひとり親支援のための制度や取組について効果的な広報、周知の方法を検討していきます。

Ⅱ 奈良県の子ども、若者の未来への責任
5. 教育の充実

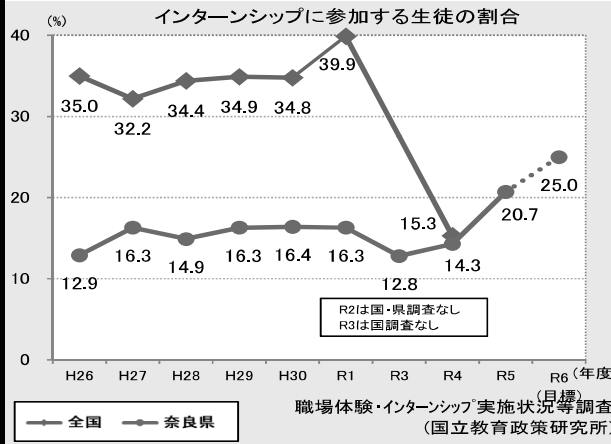
担当部局等：教育委員会、こども・女性局、医療政策局

目指す姿

一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ本人のための教育を目指します。

目標

令和6年度までにインターンシップに参加する生徒の割合を25.0%にします。

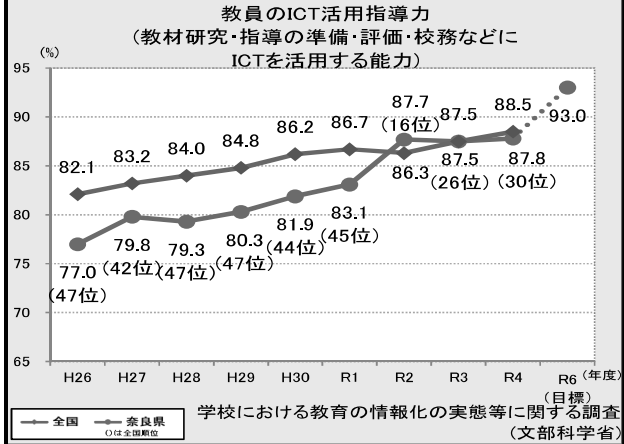


基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H 26	R 5	R 5	87.0%	R 6
12.9	+ 7.8 ポイント	20.7	23.8	③90%未満 25.0 (64.5%)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
令和3年度は大きく減少しましたが、以降は上昇傾向にあります。令和5年度は前年度から6.4ポイント上昇し、20.7%と過去最高となったものの、進捗率は90%未満となっています。

背景・要因等
新型コロナウイルス感染症の影響により、一旦、参加率は落ち込みましたが、積極的に受け入れ企業開拓を推進しインターンシップの募集枠を増やしたことなどにより、一定の成果が見られました。

令和6年度までに教員のICT活用指導力(教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力)を93.0%にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H 26	R 4	R 4	97.8%	R 6
77.0	+ 10.8 ポイント	87.8	89.8	②(90~100%) 93.0 (67.5%)

評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
全国最下位であった基準値からは大幅に改善され、令和2年度には87.7%と全国平均値を越えましたが、以降は横ばいで推移しており、令和4年度は87.8%で全国平均を下回りました。進捗率は97.8%となっています。

背景・要因等
教員用端末の整備が進み、多くの教員が授業や校務でICTを活用しているものの、総合的に活用しきれない教員が一定数存在することから、目標値に到達することができなかったと考えられます。

進捗状況

主な施策の取組・成果

- ① 高等学校授業料等への支援 高等学校授業料等の支援制度拡充の検討を行い、令和6年度から高等学校授業料等の実質無償化をスタートする方針を決定しました。
- ② 教育現場の改善 令和5年度はヤングケアラー支援室を設置しました。また、教員の負担軽減を図るために部活動の地域移行に向けて実証事業などの取組を推進しました。
- ③ 教育内容の充実 令和5年度は橿原市と橿原高校の中高連携、五條市と五條高校の地域連携の取組を実施しました。また、県立高校の特色化・魅力化をさらに推進するため、令和6年度に県内で4校を進学教育の充実を図る等の進学重点校に指定するための検討等を行いました。
- ④ 教育環境の充実 県立学校の老朽化対策を実施しました。令和6年度より「県立高校トイレピッカピカ5ヵ年計画」を実施する方針を決定しました。
- ⑤ 県立大学・県立医大の教育の充実 県立大学のキャンパス整備(クラブハウスの新築)を実施し、「教育」「研究」「地域連携」「国際交流」「法人運営」の5つの柱立てからなる中期目標を推進しました。県立医大の新キャンパス先行整備を実施し、「地域貢献」「教育」「研究」「診療」「法人運営」の5つの柱立てからなる中期目標を推進しました。

課題・取組方針

目指す姿実現に向けた課題
インターンシップの受け入れ先企業の更なる開拓及び「インターンシップ」の意義の明確化等による生徒へのキャリア教育への意識付けが課題となっています。
課題解決のための今後の取組方針
受け入れ先企業への働きかけを継続するとともに、生徒のキャリア教育への意識付けを行い、さらなるインターンシップ推進に努めていきます。

目指す姿実現に向けた課題
教員は、授業においてICTを活用していますが、児童生徒の作品やレポート等の課題収集・評価等の教育活動全般におけるICTの積極的な活用が課題となっています。
課題解決のための今後の取組方針
学校内のペーパーレス等の校務DX化に加え、従来からの授業でのICT活用指導をめざした研修に取り組むことにより、ICT活用指導できる教員を増やしていきます。